

今日のみことば

□ 5月27日(日) 列王記下 6章

神の民が、神に保護されていると言うことは真実です。確かにエリシャはアラム軍のなすがままにされているよう見えるが実はアラム軍がエリシャの手の内にありました。

□ 5月28日(月) 列王記下 7章

サマリヤはアラム軍によって包囲され、飢餓に襲われた。王はエリシャの勧めを非難した。人の施しで生きていた病人は預言者の言葉を信じつてであることを理解し、朗報をもたらした。

□ 5月29日(火) 列王記下 8章

エリシャ名神から離れたイスラエルの王の歴史を記しますがそれらの記述の中で注目すべき言葉が述べられている。「主の目の前に悪を行った。」

□ 5月30日(水) 列王記下 9章

エリシャはイエフに油を注ぎ全イスラエルの王とするよう啓示を受けた。彼はすぐに血なまぐさい仕事を始めた。残忍で無慈悲であった。なぜ神はイエフのような人間を用いられたのか

□ 5月31日(木) 列王記下 10章

イエフは、アハブの家に裁きをもたらすために神に用いられたが、その行為は神の罰を避けえない悪事であった。彼は心底からのまことの神のしもべではなかった。

□ 6月1日(金) 列王記下 11章

ユダの王アタルヤの時代、ダビデ王家の血統は、ただ幼児ヨアシュを残して全員抹殺された。祭司エホヤダ計らいで君主政治は回復され、神に対する忠誠が、新しく契約で交わされた。

□ 5月2日(土) 列王記下 12章

祭司エホヤダに訓育されて「いつも主に目に適うことを行った」ヨアシュも残念ながらエホヤダの死後、愚かにも偶像礼拝を許した。よい牧者がいなくなるとだめになる。

ろ ぼ No. 1869
2018年 5月27日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ヨハネ黙示録 1:17-18

わたしは、その方を見るとその足もとに倒れて、死んだようになった。すると、その方は右手をわたしの上に置いて言われた。「恐れるな。わたしは最初の者にして最後の者、また生きている者である。一度は死んだが、見よ、世々限りなく生きて、死と陰府の鍵を持っている。

イエスに愛された弟子ヨハネはドミテリアヌス皇帝の末期、迫害の嵐の中でパトモス島に流されました。ヨハネは復活の主イエスから特別な啓示を受けました。「ヨハネは、神の言葉とイエス・キリストの証し、すなわち、自分の見たすべてのことを証し」(黙示1:2)しました。彼はヨハネ福音書の最後に「これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、信じて、イエスの名によって命を得るためである」(ヨハネ20:31)と書きました。イエス・キリストは私たちのいのちの主ですが、私たちは、そこにすべてを置いていのちを懸けて生きている一人一人です。

私たちが尊敬して聞く内村鑑三先生が「神に捧げよ」と題して書かれた文章の一節に、「乱れしそのまま、病みしそのまま、汚れしそのまま、今これを神に献げよ、そこで神をして、その大能を以て汝に代りて整理、治療、救済の任に当らしめよ」との言葉があります。神さまにすべて働いていただけと言われているのだと聞きました。

私たちは主イエスが「見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ28:20)と言われた言葉を、しっかりと受け留めています。父なる神さまは、私たちの罪の贖いのために十字架にかかれたイエスを、陰府の世界からよみがえらされ、約束の聖霊を賜りました。おゆだねして

あまりあります。

聖霊降臨祭を祝わせていただいた私たちは、しっかりとこの主を告白させていただく一人一人です。私たちはそのお方をどのように証言していますか。私たちは問われているのです。

ヨハネは「ある主の日のこと、わたしは”霊”に満たされていたが、後ろの方でラッパののように響く大声を聞いた」と言います。そして主の声を聞き、振り向くと「七つの金の燭台が見え、燭台の中央には人のような方がおり、足まで届く衣を着て、胸には金の帯を締めておられた」方を見ました。ヨハネは「わたしはその方を見ると、その足もとに倒れて、死んだようになった」と言います。ヨハネは霊に満ち溢れたお方を見たのです。これこそが何をおいても語らねばならない、神さまから与えられたことばでした。

このお方はヨハネに「恐れるな、わたしは最初の者にして最後の者、また生きている者である。一度は死んだか、見よ、世々限りなく生きて、死と陰府の鍵を持っている」と言われました。ヨハネは、このお方から与えられた言葉を私たちに伝えました。私たちはその言葉をどのように聞き取ってきたのでしょうか。そのことが今の私たちが生きている一つ一つの姿に映し出されているのです。私は、これが私たちがしっかりと心得なければならぬ大事であると聞かせていただきます。

初めからおられ、終わりまでおられるお方から聞いてきた言葉、主イエス・キリストの福音に生きる時、この世界を覆っていた暗闇は拭いさられ、輝きに満ちた世界が広がります。今日のこの混迷した時代に生きる私たちが、切望しているものです。この喜びをこそ私たちはしっかりと伝えなければ、生かされている意味はありません。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

コリント二 2:14-3:6 資格はだれに

コリント信徒へ宛てた手紙をここまで読んできてもなお、パウロ気がかりにしていたことが、私にも気になって仕方ありません。それはキリストの教会の本質を少しも理解していない信徒たちのこと、いや、理解しようとしぬ信徒たちのことと言った方がいいのかも知れません。

私たちが信じて受け入れ、すべてをおゆだねするお方のことを、本当に知っていないと言うことです。キリストはだれのために十字架にかかれたのですか。すべての造られたもののためです。そこには区別や差別はありません。言っては悪いが自分のため、と思いつんで入っている人たちがいたようです。そこではもはや何おかいわんやです。私たちはもう一度しっかりとパウロの思いを聞かせていただかねばなりません。そしてしっかりと十字架のイエスを見上げて、そこから語られるイエスのことばに耳を傾けなければなりません。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

ルカ17:1-4

ゆるしなさい